SUPER GT
2024シリーズ
いよいよ始動!

38号車「KeePer CERUMO GR Supra」でフルカラー参戦!!

立川祐路監督・キーパータイムズ独占インタビュー

2024年、KeePerは、SUPER GT 500クラスに、38号車「KeePer CERUMO GR Supra」フルカラーで参戦します。KeePerは2022年まで、SUPER GT 500クラスに、37号車「KeePer TOM' S GR Supra」で9年間フルカラー参戦し、2017年には年間シリーズチャンピオンに輝きました。2024年、KeePerにとって間違いなく素晴らしい一年になるでしょう。また日本一人気のある立川 祐路選手が、昨シーズン終了をもって引退し、セルモの社長と同時に監督となって采配を振るいます。ドライバーは昨シーズンに引き続き、実力に定評のある石浦 宏明選手と、今シーズン最大の注目の的、ホンダから移籍の大湯 都史樹選手。今回はKeePer技研(株)代表取締役・賀来聡介がセパンでウインターテスト中の立川監督にZOOMで独占インタビュー。久しぶりのチャンピオンも大いに期待!ワクワクするようなお話を聞きました。

賀来(以下K):セパンでのテスト走行はいかがですか?
立川(以下T):今シーズン仕様のマシーンは順調です。ライバルメーカーともタイム的には僅差です。とはいえテストなので、エンジンパワーや積んでいるウエイトを考えるとなんともいえないですね。

K:直球に聞きますが、なぜ引退しようと思ったんですか?
T:なにごとも始まりがあれば終わりがあります。レースの状況が厳しいとき、自分が良かった頃に比べるとベストを尽くせていないのではないかと自分自身に満足ができなくなりました。マシーントラブルも含めて自分ができていないと感じるようになったからです。

K:キーパーがSUPER GTに参戦させていただいたのがちょうど10年くらい前です。あの頃立川さんはZENT38号車に乗っていましたが無敵でしたね。でもこの数年はご苦労されているようですが、原因はなんでしょう?
T:昨シーズンの半分以上は、マシーントラブルなどがあってまともに戦えませんでした。マシーントラブルは、チームやメーカーのミスでもありますが、ドライバーの責任も大いにあります。ドライバーに魅力があれば、チームのモチベーションが上がったり、気持ちもついてくるはずです。それもドライバーを引退した理由の一つです。

K:セルモの社長兼監督の役をお受けになったのはなぜですか?
T:僕がチームに一番長くいるスタッフであり、ドライバーだけでなくチームを引っ張る立場も長かったので、自分が乗らなくなっても、レースの現場で戦う側でいたいと思ったからです。スーパーフォーミュラでももう10年ほど監督をしているし、GTの監督も自然な流れでやっています。社長就任に関しては、予想をしていなかったですね(笑)。

K:2024年のチームはいかがでしょうか?
T:僕がマシーンに乗らないのはセルモにとって25年ぶりの新しい転機です。またKeePerと組んで、KeePer CERUMOとして新しいスタートでもあります。心機一転、エンジニアも含めて体制を一新し、楽しみではあります。ただ単純に人を入れ替えるだけではなく、「勝つためにやる」という意識の部分から構築し直していきたいと思っています。

K:立川監督からみた石浦選手はどうですか?
T:石浦選手は、ドライバーの中でも抜群の安定感があります。どんな状況でもレースをそつなくまとめてくれ、ミスでレースを落とすことはほとんどありませんでした。監督としてそういう期待はしています。

K:今のSUPER GTには大切ですね。大湯選手はどうですか?未知数ですよね。
T:僕はすごく楽しみにしているんですよ。大湯選手は、これまで接触やクラッシュなどのミスでレースを落とすこともありましたが、それを踏まえてもやっぱり「速い」。今のセルモに必要なのは大湯選手のようなドライバーなんです。石浦選手は非常に安定感があり、ミスをせず、レースをそつなくこなしますが、それだけでは勝てないんです。また大湯選手のように速いだけでも勝てない。対照的な2人が互いの良いところを学び合い、吸収し合ったときに勝利やチャンピオンが見えてくる気がします。

K:大湯選手は具体的にどんなミスをしていたんですか?
T:気持ちが行きすぎて、競り合ったときに無茶をしてしまうこともありました。でも僕はそこに魅力を感じています。行き過ぎてしまう自分をコントロールできるようになったとき、超一流のドライバーになれると思っているからです。行き過ぎられない選手を行き過ぎるドライバーにする方がよっぽど難しい。行き過ぎをコントロールして抑えていく方が、大きな可能性を秘めているんです。

K:なるほど。面白くなりそうですね!話を変えますが、キーパーはフルカラーで2022年まで7、8年SUPER GTに参戦していましたが、どんなイメージをもたれていましたか?
T:平川選手が走っているイメージが強かったですね。マシーンがすごく速い印象です。コーティングが効いているから速いのかなとか思ってました(笑)。

K:多少あるかもしれません(笑)。今年のセルモのライバルチームはありますか?
T:SUPER GTは難しいレースで、単純に強いチームはどことは言えないんです。「勝ってチャンピオンを獲る」のが目標ではあるんです

が、昨年までの状況を考えると急に新しく変わって、いきなり初戦を勝ち取ることができるかというと、そんな簡単な世界ではありません。一歩ずつ確実に前進していきたいと思っています。

K:お話を聞いていて、とてもエキサイティングな気持ちになっています。一歩ずつチームが強くなっていけるよう、私どももしっかり応援したいと思っています。今回、KeePer CERUMOとして38号車を新しくスタートするということで、すでにKeePer CERUMOファンからたくさん応援をいただいています。最後にファンの皆さんに一言お願いします。
T:自分自身としても、チームとしても新しいスタートになります。応援してくれている方々からもらうパワーは本当に大きいので、引き続き新生KeePer CERUMOの応援をよろしくお願いします!

チームCERUMO(セルモ)とは

●発祥

CERUMOチームの発祥は古く、1981年にメンテナンスガレージとして設立されたセルモは、1995年より全日本GT選手権(JGTC)にトヨタ自動車の協力のもと、トヨタスープラで参戦を開始しました。

●参戦6年目にして念願のチャンピオン獲得

2001年には、au セルモ スープラ(竹内浩徳/立川祐路)で初めてのドライバーズチャンピオンを獲得することができました。

●トヨタ勢の中で群を抜く存在

SUPER GTにシリーズ名が変更となった2005年にはZENT セルモ スープラ(立川祐路/高木虎之介)で2度目のドライバーズチャンピオンを獲得し、2013年にZENT CERUMO SC430(立川祐路/平手晃平)で3度目となるドライバーズチャンピオンを獲得した。2023年末でGT500を引退したエースドライバー立川祐路のポールポジション獲得24回は歴代最多記録です。セルモはトヨタ勢の中では群を抜く存在です。